真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	観光協会支援事業		担当課・係	産業部　商工観光課　観光係
政策名　No	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ！～	関連する SDGs･DX	 DX
施策名　No	4	観光の振興		

	名　称	初年度からの実績値の比較						目標値
		単　位	R7	R8	R9	R10	R11	R11
成果指標	観光客入込数	千人	3,004					2,800

事業内容

観光協会は、市内の名所、史跡並びに郷土の物産を紹介宣伝し、本市観光の推進を図るため設立された組織。
観光協会職員は、当初、嘱託職員2名であったが、平成25年1月に1名、4月に1名、その後、平成26年10月久保記念観光文化交流館の開館に合わせて、事務所を久保記念観光文化交流館に移し、新規採用2名を加えた6名体制で指定管理事業を開始した。
平成30年度からは、真岡木綿会館の新たな指定管理者となり、観光協会事務局長や嘱託職員を採用するなど、体制強化を図り現体制となっている。
令和５年度から精算制を導入し、維持管理費や事業費の余剰分を返還させている。
現職員数は局長１名、次長１名、一般職６名、嘱託１名、臨時２名、の計１１名（指定管理従事職員含む）
【観光協会の事業内容】
1. 観光推進事業
2. 観光まちづくり事業
3. 新しい誘客方法の実践
4. 指定管理施設及び、委託施設業務運営事業
・桜まつりなどのイベント運営
・物産品販売
・久保記念観光文化交流館、真岡木綿会館の指定管理業務

前年度の課題（Check）

観光客数は前年比約７．５％の減となり、荒天による木綿踊りや尊徳夏まつりなどの大きなイベントの中止も影響している。また、コロナ禍明けに高まった観光需要が落ち着いたこととともあり、全体的に伸びていない。
今後は、主催事業や支援するイベント、特産品のＰＲ強化を行い、観光客の増加を図る。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
市内の名所、史跡並びに郷土の物産を紹介宣伝し、本市観光の推進を図るために設立された「真岡市観光協会」の支援。

【真岡市観光協会支援補助金】22,920,000円
主な事業内容
1. 観光推進事業
・真岡の一万本桜まつり（行屋川桜まつり、北真岡沿線ＳＬ・桜・菜の花主催）　3/28～4/12
・夏祭り花火大会協賛観覧席の運営　7/25　・真岡・浪漫ひな飾り　2/1～3/3　・観光物産館における苺の販売
2. 観光まちづくり事業
市内イベント、観光情報発信
「もおか観光コンシェルジュ」、「モオカの休日」への支援、利用促進と観光客へのPR
複合交流拠点施設monacaとの連携と回遊性の推進
・木綿と魔法のハロウィンマルシェにおけるクイズラリーの実施　・monaca西口玄関にまちあるきマップ設置　・monaca１周年に合わせたプチいちごマルシェの開催
・もぐもぐいちごマルシェにおけるスタンプラリーの実施
3. 指定管理施設及び、委託施設業務運営事業
・久保記念観光文化交流館の管理運営　・真岡木綿会館の管理運営　・岡部記念館「金鈴荘」の案内業務

【２】結果と課題（Check）
・観光入込客数は3,004,167人と前年と比較し632,845人増加。
・従来のイベントを実施したが、内容等が固定化。
・協賛観覧席において立ち見客が発生。う回路の見直しが必要
・企画委員会の活性化。
・菜の花の育成管理。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
・monacaからの回遊性の向上
・報徳サミットを転機とする新商品の開発
・SNSを活用した情報発信の強化

（2）長期的な計画で検討すること
市の補助金に頼ることのない自立した運営の確立を目指し、引き続き収入増に向けた取組の働きかけを行う。
・新商品開発
・協会員増の取組
・首都圏等イベントでの積極的な物販
・観光協会職員の給与財源の確保。